

合格体験記

大阪府(中学校・理科)に合格 Y.M.さん

Q なぜ教師を目指したのですか？

A 中学校時代の恩師の教科指導は、理科を学ぶ楽しさを体感できる授業でした。日々の授業からは生徒を引きつける力と、熱い情熱が感じられたので、私は当時から教員に対する大きな魅力を抱いていました。恩師の授業から感じたことは、授業を工夫することの大切さと、その工夫一つで理科離れをする生徒を減らすことができる点であり、教職への意欲と使命感を持つようになったのが教員を目指したきっかけです。

Q 教員採用試験に向けて

①いつから勉強しましたか？

A (筆答試験について) 3回生12月から4回生4月頃までは就職活動を行っていました。就活が終わるまでは教採の勉強をせず、5月中旬から勉強を始めました。卒業研究の実験があるので、1日中勉強に集中することはできませんでしたが、空き時間を有効に使っていました。6・7月は教育実習や研究計画発表があったので、2週間程度の勉強が限度でした。(面接試験について) 3回生の終わり頃から、教職ナビの活動に参加していました。就活と教採の両方に生かせる面接練習だったので、よかったですと思います。参考書相手に勉強するのは苦手だったので、5月までは最低限、面接対策だけ行っていました。

②勉強する際、どのような教材を使っていましたか？

A 教員試験対策シリーズ 協同出版 (全国版過去問、三重県教職・一般教養・論作文の問題集)

③息抜きの方法は？

A 友達と、時間も忘れてひたすらしゃべることです。話すことが好きな私にとって、1番のストレス発散法でした。あと、少し長めのお昼休憩をとることも良い息抜きです。とにかく、日々の生活において時間に追われないこと、焦らないことが大事です。時間にも自分にも余裕を持ってください。

④眠気対策は？

A 眠くなったら寝ました。その際、15分睡眠が効果的です。眠いまま勉強を続けるよりも、少し頭を休めるだけでかなりスッキリします。家での勉強では、そのまま深い眠りにつく恐れがあったので、図書館もしくは研究室での勉強に徹底し、家には勉強道具を置かないことにしていました。

⑤1日何時間勉強していましたか？

A 5月は研究があったので、1日2~3時間だったと思います。7月中旬の追い込み時期は、1日8~10時間勉強していました。1日に多数の項目に手を付けるのではなく、今日は専門教養、明日は一般教養など、区切りをつけて問題を解いていました。

⑥大阪府以外の対策は？

A 三重県は他府県に比べ、受験項目が多いです。一次試験（教職教養・一般教養・専門教養・集団面接・適性検査）二次試験（論作文・常識問題・集団討論・模擬授業・個人面接）一次試験に関しては、三重県の過去問、および全国版過去問題集で対応し、出題傾向の似た都道府県を優先的に解いていました。二次試験の論作文は、教職の先生方に添削をお願いし、後日、講評していただく形をとりました。模擬授業は一次試験の合格通知と同時に課題が発表されます。塾講師のアルバイト経験が2年半あったので、模擬授業の対策は特に行いませんでした。

Q 教職ナビについて

①どのような点が良かったですか？

A 教科長・副教科長が綿密な計画のもと、教職ナビを活性化させてくれたことです。おかげで、自分のペースを崩すことなく、有意義な時間を持つことができました。そして、なによりも精神面で支え合えたことが非常に大きかったように思います。不安になった時も、同じ教員を目指す仲間とお互いに励まし合い、時には愚痴り合い、共に成長できる環境がそろっていた点が良かったと思います。また、受験する都道府県によって様々な特徴があり、対策などを聞かせてもらえるのも楽しかったです。

②教職ナビでは、どのような活動をしましたか？

A 個人・集団面接、集団討論、模擬授業の対策に参加していました。1週間に3回程（1回90分）の活動があり、4回生・院生をはじめ、3回生も積極的に参加していました。勉強会や行事の報告会なども行われており、ナビ活動は充実していたように思います。特に面接対策は先生方からの講評が非常にためになると同時に、今後の対策や個人に合った勉強法なども教えていただきました。

Q 面接対策はどのようにしていましたか？

A 農学部の教職ナビで毎週、先生方に対策をしていただきました。面接は場慣れがすべてなので、都合のつく限り参加していました。面接の本などを読むのも大事かもしれませんが、それよりも、面接官の前で自分を堂々とアピールできる自信が持てるまで実践練習あるのみだと思います。自己PRを聞かれることが多いので、それだけは前もって作成しておきました。自分の受験する都道府県が決定したら、教育委員会のホームページなどに目を通し、話せるネタを持つことも対策の一つです。教職ナビを通して、本学から面接対策などの連絡がありましたが、私は結局、教採直前の1回しか行きませんでした。自分の力を試す場としては非常に良い機会だったと感じたので、農学部からも積極的に参加すると思います。

Q 来年から教壇に立つわけですが、どのような先生になりたいですか？

A 生徒が、「明日も来たいと思う学校」とは、第一に『授業が分かる』という条件にあるため、教員として、まず授業時間の充実に重点をおきたいです。生徒の好奇心と考える力を引き出す学習を実践するために、創意工夫に富んだ授業を追求できる教員になりたいです。よって、教科指導としては仮説実験授業を取り入れ、五感をフルに活用した効果的な授業を展開していくつもりです。学力向上・学力保証に向けた学校を作り上げる責任を持ち、十分な教材研究から価値ある授業を生み出していける教員を目指します。

Q 後輩にメッセージをどうぞ。

A 就活と教採で悩んでいる人は、両方取り組むべきだと思います。私も、教採のことを一時期保留して、しっかり就活をしていました。関心のある仕事があった事と、就活をしてみたい気持ちが強かったからです。自分は教採一本で！！と心に決めている人は、今の大切な時間を、就活にあててられないと思うかもしれませんが、私は、『時間』と引きかえに『面接に強い自分』を得たような気がします。教採で1番大事なのは、自分に自信を持つこと、そして焦らないことです。私も今だから言えるのですが、『面接で勝てれば、教採に勝つ』とは本当だと思いました。魅力ある自分をアピールする力を養うためにも、就活を通して社会を知り、やりたい仕事を再確認する事も大切です。今は精神的にも1番つらい時期で、やるべきことがたくさんあるのに、時間が足りないような気持ちになります。でも焦らないでください。みんな、感じていることは同じはずです。やるべき事だけに力を入れ、余計な事は考えずに手を出さない！！気楽に勉強することが勝利の秘訣だと感じました。信頼できる先生方や、教職ナビの友達、そして同じ夢を持つ仲間はいつも身近にいてくれます。あと9ヶ月あります。焦らず、落ち着いて！！自分を信じて、教職ナビを信じて。そして将来、教壇に立つ自分を思い描きながら、頑張って突き進んでください！！